

## 国立民族学博物館におけるフォーラム型情報ミュージアム構想について

著者	岸上 伸啓
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	137
ページ	15-23
発行年	2016-09-20
URL	<a href="http://doi.org/10.15021/00006096">http://doi.org/10.15021/00006096</a>

# 国立民族学博物館における フォーラム型情報ミュージアム構想について

岸上 伸啓  
国立民族学博物館

## 1 はじめに

人類は、世界各地で生活用具や儀礼具、建造物、歌、踊り、口頭伝承などさまざまな有形、無形の文化資源を創り出してきた。ところが、現代社会は、グローバル化の急激な進展による民族文化の消滅やその文化の担い手の高齢化と継承者不足による伝承の機能不全に直面している。このため、人類の知的遺産としての民族文化の継承と創造の問題についてはグローバルな視点から取り組む必要がある。

国立民族学博物館（以下、民博と略称）は、開館以来40年にわたりこれまで世界各地の社会や文化を研究し、多様な民族資料とそれらに関わる情報を集積してきた。文化資源の世界的な集積拠点のひとつである民博は、それらの資料や情報を「人類の文化資源」として同時代の人々と共有するとともに、後世に伝えていくことを使命のひとつと考えている。すなわち、われわれは、人類の文化資源とその関連情報を地球規模で共有し、共同利用を実現することが急務であると考えている。

このことを実現するために、国内外の研究機関、大学、博物館、そして現地社会と連携しながら多様な文化資源について共同研究を推進し、その成果をグローバルな共同利用データベースとしての「フォーラム型情報ミュージアム」から発信し、共有したいと考えている。なお、フォーラム型情報ミュージアムとは、民博が現在構築中のフォーラム機能を持つ複数の文化資源データベースの集合体の総称である。それは、福岡正太が定義したように世界各地の研究機関や博物館等に分散する文化資源についての情報の窓となり、研究者や文化伝承者らの異なる視点を重ね合わせて知識を生成蓄積し、グローバル化する世界において文化を伝承あるいは創造する場を提供する、フォーラム機能を持つ国際的な共同利用データバンクであると言い換えることもできる（福岡2015: 12）。

ここでは、民博におけるフォーラム型情報ミュージアム構想について紹介したい。なお、現在、試行錯誤しながら同ミュージアムを構築中であることをお断りしておきたい。したがって、ここでの報告は、構想メモのひとつであると考えていただきたい。

## 2 国立民族学博物館におけるフォーラム型情報ミュージアム構想の概要

### 2.1 国立民族学博物館の文化資源と関連情報

全国大学共同利用機関としての民博は、40年にわたり世界各地から約40万点に及ぶ民族資料と映像・音響資料、約60万点に及ぶ文献資料を収集・収蔵しており、それらの保存管理やデータベース化を実施し、共同利用の促進を図ってきた。民博は創設当初から梅棹忠夫（初代館長）による「博情館」構想のもと、いわゆるマルチメディア・データベースの構築を推進してきており、その優位性を生かして世界のこの分野の情報ハブとなるための基礎がある。

また、民博の研究者は、現地調査に基づいて世界各地の文化資源およびそれらに関連する情報を収集しており、膨大なデータを蓄積してきた。そのデータの一部は、各自の著作や論文の中で分析され、公表されているものの、大半の文化資源に関する情報は、個別に管理されているため、統合された形式で保管されていない。こうしたデータも含めて、民博が所蔵する情報を確認し、統合し、さまざまな人が利用できるような情報発信システムを開発する必要があると考える。

### 2.2 フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトの誕生

2012年頃から民博は第3期中期目標・計画期（2016年度～2021年度）に館の中核となる研究プロジェクトの検討を本格的に開始した。当初は、国際学術協定に基づく文化資源に関する国際共同研究プロジェクトを構想していたが、人間文化研究機構や文部科学省と交渉を行う過程で、プロジェクトの内容に変更が生じた。

人間文化研究機構や文部科学省から、現在、社会的に要請されていることは、文化資源に関する情報を公開し、共同利用を促進するようなデータベース構築を中心とするプロジェクトではないかという助言があった。これを受けて、情報や研究成果を発信することも考慮に入れて、文化資源に関する国際共同研究の成果を発信するためのデータベース作成と公開を研究プロジェクトに追加することになった。館内の何人かが検討ワーキンググループを結成し、議論を重ね、次のような案をまとめた。

第1に、民博などに収蔵されている文化資源について館員が国内外の研究者や文化の担い手とともに国際共同研究を実施し、文化資源に関する基本情報を充実させ、研究成果をデータベース化し、共同利用ができるような研究プロジェクトを考案する。

第2に、基本情報や研究情報は、日本語のみならず英語や文化資源の制作者や使用者の現地語へと翻訳し、研究者やそれ以外の一般の人、現地社会の人々もアクセスし、利用できるようにする。

第3に、コンテンツを発信するデータベースは、多言語対応かつフォーラム機能をも

つことが必須である。特定地域の文化資源の情報について多言語で読むことができ、かつ研究者や文化の担い手（現地社会の人々）、一般の人々が自分の見解を書き込み、相互に情報交換ができる、新たな知識を生み出すことができるようなデータベースにする。各研究プロジェクトチームは、システム構築の専門家と協議しながら、それぞれ独自のデータベースを構築する。

第4に、コンテンツの公開にかかわる著作権や肖像権については、各プロジェクトが責任を持って処理する。

第5に、特定の個人から一般の人々まで、必要に応じたアクセス制限を可能にすることによって、情報公開の次元を複数設定する。

第6に、フォーラム型情報ミュージアムは、個々のデータベースの集合体であるが、横断検索が容易にできる機能を有する。また、フォーラム型情報ミュージアムの構築は、当面、民博を中心に行うが、最終的にはクラウド化し、他機関も参加できるようにする。

第7に、各研究プロジェクトリーダーは、共同研究者や現地の文化の担い手の人々と協議し、文化資源に関するテーマを決め、国際共同研究を実施し、その成果をもとに文化資源情報の高度化や多言語化を行い、データベースのコンテンツを作成する。その上で、情報学の専門家と協議して、独自のデータベースを構築し、発信する。

第8に、各プロジェクトチームがそれぞれのデータベースの維持管理と投稿者による書き込みの精査を、定期的に行う。

第9に、このプロジェクトを管理し、円滑に推進するために、フォーラム型情報委員会や外部評価委員会、システム開発部会などを設置する。

以上を前提として、プロジェクト実施のための予算獲得の準備を進めた結果、2014年度から概算要求が認められ、プロジェクトが開始した。

## 2.3 フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトの概要

フォーラム型情報ミュージアムの構築は、次の3段階からなる。

第1段階は、研究プロジェクトごとに特定の文化資源群もしくはテーマに関して国際共同研究を実施し、その成果をもとに多言語化された情報生成型データベースを構築することである。データベース化する情報には、文化資源に関する情報のみならず、民族や地域社会に関するより広範な情報や映像・音声資料が含まれる。共通情報以外については、どのような情報を盛り込むかは各研究プロジェクトが検討し、コンテンツをもとに、システム開発担当の教員と協議しながらフォーラム機能を持つ情報生成型データベースを作成する。

第2段階は、複数の情報生成型データベースを横断検索でき、多方向への情報の発信と交換が可能なフォーラム機能を持つシステムを構築し、運用・維持することである。このシステムは、民博の教員と国立情報学研究所の高野明彦研究室が共同研究に基づい

て開発する。

第3段階は、各プロジェクトの成果をフォーラム型情報ミュージアムによって公開するのみならず、国際シンポジウムや国際連携展示、出版によっても発信する。また、後者の成果の一部は、フォーラム型情報ミュージアムによっても発信する。

このフォーラム型情報ミュージアムは、地域文化の保持や復興、特定テーマの研究の深化や比較研究、新たな学問分野の創出などを目的にさまざまな人が利用することが期待される。

### 3 フォーラム型情報ミュージアムの実現のための取り組み内容

次にフォーラム型情報ミュージアムを実現するために取り組まなければならない内容と実施体制についてそれぞれ説明する。

#### 3.1 研究プロジェクトごとの国際共同研究の実施および情報生成型データベース構築

特定の地域の文化資源やテーマに関する個別の研究プロジェクトは2年ないし4年の期間で国内外の連携機関と協働して実施する。前者は、すでに存在している文化資源情報を深化・拡充させ、発信するもので、強化型プロジェクトと呼ぶ。後者は、国際共同研究を立ち上げ、その成果をもとに文化資源に関する情報コンテンツを新たに作成し、発信するもので、開発型プロジェクトと呼ぶ。

2015年度は、「北米先住民製民族誌資料の文化人類学的ドキュメンテーションと共有」（開発型）、「朝鮮半島の文化」に関するフォーラム型情報ミュージアムの基盤構築」（強化型）、「徳之島の民族芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」（強化型）、「民博所蔵「ジョージ・ブラウン・コレクション」の総合的データベースの構築」（強化型）の4つの研究プロジェクトを実施した。これらのプロジェクトは、北アリゾナ博物館や韓国国立民俗博物館、徳之島町などと学術交流協定を締結し、協働しながら実施した。

##### 3.1.1 コンテンツ化のための国際共同研究

各プロジェクトチームは、強化型プロジェクトは2年、開発型プロジェクトは4年の期間で、国内外の連携機関や現地社会と協働して実施する。開発型プロジェクトの場合は、海外の研究機関などと学術協定を締結し、実施することを原則とする。

各プロジェクトリーダーは共同研究者とともに特定の文化資源群に関する共同研究を行ない、その成果を高度情報化、公開適正化、多言語化し、データベース用にコンテンツを作成する。そのコンテンツをもとにプロジェクトごとの情報生成型データベースを完成させる。

なお、データベースのコンテンツは、文化資源の基本情報以外に関して、各プロジェクト独自の内容であっても問題は無い。

### 3.1.2 情報の高度化

民博が収蔵している標本資料には、標本名、現地名、訳名、収集地、使用地、使用民族、使用年代、用途使用法、製作地、製作法・材料など標本資料に関する基本情報が付与されている。各プロジェクトチームは、これらの情報を現地社会の人々や他機関の研究者と精査するとともに、共同研究の成果として各標本資料に関係する民族誌情報、地理・環境情報、時代背景に関する情報、画像情報など、より深化し、拡充した情報を付加したデータベース用コンテンツを作成する。

### 3.1.3 情報の公開適正化

各プロジェクトチームは、共同研究の成果のコンテンツ化に際して、何を公開し、何を公開しないかを決めなくてはならない。また、宗教儀礼などの情報は特定の人やグループだけにしか公開してはならないものがあるため、研究プロジェクトごとに情報を選別し、公開の次元を複数設定する必要がある。たとえば、特定の個人や家族にのみ公開可、特定のコミュニティに公開可、特定の研究者コミュニティに公開可、社会一般に公開可などの次元を設定する。また、必要に応じて資料の利用や画像などの著作権や肖像権の処理などを行なう。

情報生成型データベースが公開された後に、さまざまな情報や意見などがデータベース上に投稿されることが予想される。それらの情報や意見をデータベースに反映させるかどうかに関して検討する必要がある。

### 3.1.4 フォーラム機能と情報の多言語化

フォーラム機能を有するとは、文化資源の制作者や利用者、文化伝承者、研究者、それ以外の人びとが情報や意見を相互に出し合い、検討し、新たな知識を創出する仮想空間を創出することである。そのため、フォーラム型情報ミュージアムにはアクセスした人が自分の情報や意見を書き込み、相互に意見交換ができるシステムを構築する必要がある。データベースにそのようなフォーラム機能を持たせるためには、研究プロジェクトごとに公開する情報を日本語、英語、現地語など多言語化することが必要条件となる。

公開するコンテンツのどの部分を多言語化するかは、プロジェクトごとに決定するが、文化資源の基本情報については原則としてすべて多言語化する。

### 3.1.5 情報生成型データベースの構築

各プロジェクトチームが制作したコンテンツをもとに、データベースを構築するが、

各プロジェクトチームは、システム開発担当の教員と連携しながら、フォーラム機能を持つデータベース・システムを協議し、独自の情報生成型データベースを構築する。

なお、情報生成型データベースとは、フォーラム機能によって新たな知識を生み出し、蓄積していく機能を持つデータベースを意味する。

### 3.2 フォーラム型情報ミュージアムの横断検索機能

フォーラム型情報ミュージアムの構築とは、複数の情報生成型データベースの集合体であると考えて良い。フォーラム型情報ミュージアム内のデータベースはそれぞれ独立しているが、データベース間で統合検索ができるシステムを有している点を強調しておきたい。このため、各プロジェクトが構築した情報生成型データベースを統合して検索可能なシステムを構築し、情報を多方向的に発信しあうことができるようにすることが必須である。

### 3.3 国際シンポジウムと国際連携展示による成果の発信

フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトは、単なるデータベースを構築するためのプロジェクトではなく、文化資源に関する最新の研究成果に基づく情報を発信・交換し、新しい知を創造するためのツール作りである。国際共同研究の成果は、情報生成型データベースのコンテンツに反映されるのみならず、国際シンポジウムや国際連携展示、出版などさまざまな媒体によって発信する。

### 3.4 実施体制について

本プロジェクトを円滑に実施するために、フォーラム型情報ミュージアム委員会、国際共同研究プロジェクトチーム、連携機関連絡会及び評価委員会を設置する。これらの委員会の機能と委員会構成は、次の通りである。

#### 3.4.1 フォーラム型情報ミュージアム委員会

本委員会では、情報生成型データベースの構築とフォーラム型情報ミュージアムの創出に係る制度設計や全体計画の策定、各研究プロジェクトの採択や運営などを審議する。同委員会は、副館長（研究・国際交流担当）、施設長、館員5名、および各プロジェクトリーダー等で構成する。

#### 3.4.2 共同研究プロジェクトチーム

各プロジェクトチームは、国内外の大学・研究機関・博物館等との学術協定に基づき、共同研究・調査を実施し、情報生成型データベースを構築する。プロジェクトには、すでに紹介したように「開発型」と「強化型」の2つのタイプがある。

開発型プロジェクトの規模は、館員3名以上を含む15名程度（うち5名は外国人研究者）とし、4年間で実施する。強化型プロジェクトの規模は、館員1名以上を含む5名程度とし、2年間で実施する。なお、強化型の場合は、海外機関と協定締結に基づかななくてもよい。

#### 3.4.3 連携機関連絡会

開発型プロジェクト間の運営やシンポジウム・連携展示の開催について調整するため、副館長（研究・国際交流担当）、フォーラム型情報ミュージアム委員会の構成員（教授等）2名、各開発型プロジェクトのリーダーで構成する。

#### 3.4.4 評価委員会

評価委員会は、全プロジェクトの成果、データベースの構築、及びフォーラム型情報ミュージアムの創出と運用を評価し、改善などのアドバイスを行う。同委員会は館員2名、国内の専門家2名、海外の専門家2名で構成する。

## 4 研究プロジェクトの展開計画

2014年度から始まった本研究プロジェクトは、2016年4月の第3期中期目標・計画開始に伴い、計画を若干、修正した。

### 4.1 新しい全体計画

本プロジェクトでは、本館が学術協定を締結しているアジア地域及び欧米地域等の研究機関などと連携しながら、文化資源に関する国際共同研究プロジェクトを実施する。その上で、多言語対応でフォーラム機能を持つ情報生成型データベースをもとにした情報ミュージアムをオンライン上に構築し、共同研究の成果を発信することによって、文化資源に関する情報を地球規模で共有し、共同利用化する。

オンライン上での情報の発信と交換の手段であるフォーラム型情報ミュージアムのシステム構築については、平成26（2014）年度から検討を進めてきたプロトタイプシステムを基に、本館と国立情報学研究所で共同研究を実施し、新しいシステムの開発と運用を進める。平成28（2016）年度から試行的な稼働を開始し、随時、改良を加え、平成33（2021）年度までに完成させる。

文化資源に関する共同研究の成果をデータベース化し、フォーラム型情報ミュージアムによって発信する。最終目標として、3万4,000件（68万レコード）の文化資源情報を発信する。また、研究成果は国際シンポジウムや国際連携企画展示によっても公開する。



本事業全体としては、6年の期間内で、5件の開発型プロジェクトと12件の強化型プロジェクトを完了させる。現時点では、つぎのようなプロジェクトを想定している。

開発型プロジェクト（5件）：「米国南西部先住民資料」、「台湾・琉球関連資料」、「アイヌ資料」、「アフリカ関連資料」及び「南アジア・東南アジア資料」。

強化型プロジェクト（12件）：「韓国の現代生活資料」、「19世紀オセアニアの民族資料」、「日本南西諸島の芸能資料」、「北米北方先住民資料」、「世界の楽器資料」、「中東資料」、「ヨーロッパ資料」、「中南米資料」、「澁澤コレクション資料」、「中国資料」、「モンゴル・シベリア資料」、「日本資料」。

また、高等教育や研究開発におけるフォーラム型情報ミュージアムの活用方法を開発し、その成果を普及させることにより、大学での教育・研究の推進に応用する。

## 4.2 2016年度に実施する事業内容および以降の実施目標

### 4.2.1 2016年度に実施する事業内容

2016年度には、「米国南西部先住民資料」、「台湾・琉球関連資料」及び「アイヌ資料」に関する3件の開発型プロジェクトと「北米北方先住民資料」、「澁澤コレクション資料」、「世界の楽器資料」、「中国資料」及び「日本資料」に関する5件の強化型プロジェクトを実施する。初年度には、7,000件（14万レコード）のデータベース・コンテンツを作成する。また、国立情報学研究所等との共同研究によって、多言語対応の情報生成型データベースのシステム開発を行う。上記と並行して、フォーラム型情報ミュージアムの高等教育における活用方法の開発研究を開始する。さらに、フォーラム型情報ミュージアム委員会を中心に当該年度の全体計画を練るとともに、年度末にその年度の進捗状況評価を実施し、次年度の準備を行う。

### 4.2.2 プロジェクト全体の数値目標

本研究プロジェクトの数値目標は、以下の通りである。

- 国際共同研究プロジェクトを推進するための国際学術協定の締結予定数：（件数）

※延数：（ ）内は新規件数

第3期目標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
11	5	7 (2)	9 (2)	11 (2)	11	11

- 公開予定のデータ・コンテンツ数（①件数・②レコード数）

	第3期目標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
①	34,000	7,000	8,000	7,000	6,000	4,000	2,000
②	680,000	140,000	160,000	140,000	120,000	80,000	40,000

- 共同利用・共同研究に係る情報提供・発信予定数：運用開始予定の情報生成型データベースの数：(件数)  
※延数：( ) 内は新規件数

第3期目標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
17	4	8 (4)	10(2)	13(3)	15(2)	17(2)

- 国際的頭脳循環のハブとなる拠点の水準の状況 (①外国人研究者の招請数、②外国人研究者の受け入れ、③若手研究者の参画数：(名))

	第3期目標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
①	72	15	15	15	15	8	4
②	25	5	5	5	5	3	2
③	48	10	10	10	10	5	3

- プロジェクトレベルで外部評価の実施予定件数

第3期目標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
34	7	8	7	6	4	2

## 5 まとめ

本稿では、民博が収蔵している文化資源情報を地球規模での共有化と共同利用化を推進することを目的とした現在構築中のフォーラム型情報ミュージアムの概要と計画を紹介した。

当面、われわれが目指しているのは、国内外の大学・研究機関・博物館等と学術協定を締結し、人類の文化資源に関して、研究者のみならず文化の担い手である現地社会の人びとも参画する国際共同研究プロジェクトを実施することによって、新たな情報の付加や情報の高度化ならびに研究成果の公開適正化・多言語化を実現するとともに、研究情報のみならず文化の担い手の知識も集積できるフォーラム機能を持つ情報ミュージアムをオンライン上に構築することである。

このプロジェクトは、全国大学共同利用機関である民博の中核的な研究プロジェクトとして第3期中期目標・計画期(2016年度～2021年度)に実施する予定である。

## 参考文献

福岡正太

- 2015 「徳之島の民俗芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」、『民博通信』149: 12-13。